ニュースレター

「がんばる農林漁業者」　第３号

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動　推進本部
平成２６年１１月１８日発行

このニュースレターは「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の一環として発行しています。農林水産業の復興・再生に向けて先進的な取組をされている方々を取材し、毎月紹介していきます。

２つの法人で地域農業の復興を担う ～震災を乗り越え、攻めの農業を～

須賀川市
伊藤　俊彦さん
☆水稲、販売☆

伊藤さんは、水稲の生産組織としての「稲田アグリサービス」と、食べる人へとつなぐ団体として流通販売や生産物の品質評価等を担う「Ｊ・ＲＡＰ」の２つの法人の代表を務めています。現在では、２つの法人により生産・買い取りから加工販売（発送）までの一貫した独自流通システムを確立したことにより、中間流通の簡素化と年間を通じた安定供給のネットワークを構築し、販売力を強化しています。

伊藤さんは、いち早く放射性物質の吸収抑制対策に取り組むとともに、検査機器を導入して結果の公表と消費者に現状をみてもらうツアーの実施、ＨＰにおける時系列的な情報の公開等により、地域の風評払拭に努めています。

今後は、「稲田アグリサービス」では、受託ほ場の拡大とそれらほ場の放射性物質吸収抑制資材の投入などを行いながら、以前のほ場に戻し「稲田米」の生産を強化していくとともに、「Ｊ・ＲＡＰ」では、自然の力と作物自体の持つ生命力を最大限活用する「適地」「適期」「適作」の思想と実践で「つくる」というこだわりを支えていく施設やシステムの強化を図っていくそうです。

さらに、６次化を進めるため、規格外農産物や未利用農産物を有効利用した国産原料の乾燥野菜・フルーツやパウダー製造販売を手がけ、地域の農産物の付加価値販売を推進していくとのことです。

ミネラル栽培による野菜栽培を通した「見せる農業」の実践

西会津町
渡部　佳菜子さん
☆野菜、水稲☆

渡部さんは、野菜８ｈａ、水稲３ｈａを、両親、常時雇用４名、臨時雇用３名で経営しています。平成２３年３月に県農業総合センター農業短期大学校を卒業後、自家に就農しました。就農当初から両親の取り組んでいるミネラル野菜に取り組んでおり、農業を通して多くの人に安全・安心な野菜を届ける取組を実践しています。

現在は、「にしあいづ健康ミネラル野菜普及会」に所属し、ミネラル栽培による野菜栽培に取り組んでいます。野菜はキュウリの施設栽培を中心とした１０種類の品目を栽培しており、町のリース事業を活用した３０棟の施設を利用して安定出荷を図っています。出荷先はＪＡの他、道の駅の直売所や地元量販店、漬物会社等であり、多くの消費者にミネラル栽培の野菜を届けるため、販路拡大に努めています。

渡部さんは今後、単に市場や量販店に出荷するだけではなく、消費者や流通関係者に現地に来てもらい、実際の栽培や収穫を体験して見てもらう「見せる農業」を進めていきたいそうです。

その「見せる農業」を進めるために、今後は花き栽培を導入したり、グリーンツーリズムや農家レストランなどにも取り組みたいと考えています。また、農作業を楽しむための作業服のデザインに興味があるので、農作業用のファッションデザインも手掛けてみたいとのことです。

顧客への情報発信・PR活動
安全な農産物生産のための取組

新地町
畠　利成さん
☆りんご、もも☆

畠さんの自家はりんご１６０ａ、もも１０ａを経営しています。農薬や化学肥料をできるだけ減らした栽培を実践し、地域の中で先駆けて、りんごで特別栽培農産物の認証を受けました。

震災後、まだ検査体制が不十分だった状況の中で、県外にある民間の測定所に通い続け、生産物の安全確認と顧客への説明に努めましたが、放射性物質への不安から半数くらいの顧客が離れていったそうです。それでもなお、継続して購入くださる方にはこれまで以上に丁寧な対応を心がけ、検査結果はもちろん、園地の状況や果物豆知識などの消費者向け情報を、随時ブログ等で発信しています。

このほか、畠さんは相馬地方の農業後継者クラブ「Ａ．Ｃ．ハマーズ２００１」でも活躍しており、昨年までは会長を務めていました。クラブでは、昨年から関東を中心に販促イベントを実施しています。イベントでは、会員が生産した農産物の販売のほかに、県産農産物の安全性についての説明、県産農産物に関するアンケート調査を行っています。直に消費者と接して得られたことを、今後の営農活動に生かしていくそうです。また、ｆａｃｅｂｏｏｋにより会員の生産現場、活動風景、所感などの情報発信を行っています。

畠さんは、今後もこのように消費者の言葉に耳を傾け、考えを伝えていくなど、会話を重ねていくことが重要だと考えています。

「いわきゴールドしいたけ」のブランド化
成長産業としての農業と後進の育成

いわき市
いわき菌床椎茸組合
☆菌床しいたけ☆

いわき菌床椎茸組合は、平成２０年に理事長の磯上浩一氏を中心に市内の農業者５名により設立されました。平成２２年から菌床しいたけの生産を始め、生産量は初年度２０８t、平成２５年度は５００t 超を見込む成長を遂げています。

いわき地域が菌床しいたけ生産の空白地帯であるという点に着目し、食の安全と安定供給の面からいわきで生産することに意義を感じ、生産を開始したそうです。震災の影響により売上げが激減しましたが、これまで出会った方々との協力で販路の拡大としいたけを使った商品を開発しています。また、従来の農業の枠組みに囚われず、経営の指針として生産や売上の目標をこまめに設定し、達成状況の把握と生産改善に対する認識の共有を図っています。また、従業員との面談を通して自分たちが作ったしいたけに対する誇りと自覚を促し主体性を高めるようにしています。

今後は、震災以降、生しいたけの流通価格が落ち込んでおり、売上高が伸び悩んでいるので、新たな６次化商品の開発を検討しています。このほか、レトルト食品や冷凍食品への進出を考えているそうです。

また、組合の中からやる気のある人材を独立させてグループとしてブランドをより一層高めていくことや、食品開発部門を新設するため、食品開発分野の新卒者を採用するなどの対応をしていきたいとのことです。

ニュースレターの発行にあたり、取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

このニュースレターは、
ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動の
ホームページからも見ることができます。
アドレスはこちら　↓
http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fff-syoku-furusato/

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.